

2026年3月期

決算説明資料

(コード:416A)

富士ユナイトホールディングス株式会社

(上場廃止となった子会社:富士興産株式会社)

組織再編

持株会社体制への移行/富士ユナイトホールディングス設立

富士ユナイトホールディングスを設立し、持株会社体制へ移行
グループ経営の意思決定を迅速化し、事業成長を加速
グリーン領域・エネルギー領域・インフラ領域の3領域へ事業セグメントを再編

グループ強化

加島の富士ユナイトグループへの加入

京滋地区で石油事業を営む加島をグループに迎え入れ、グループ既存事業とのシナジー創出により、
グリーン領域事業の拡大に注力

バイオ燃料 製造体制強化

姫路バイオ燃料製造所の稼働開始(2025年11月竣工)

姫路製造所を稼働開始し、自社製造所4か所体制により製造供給機能を強化

姫路バイオ燃料製造所の稼働開始(2025年11月竣工) / 供給体制の強化

バイオディーゼル燃料は、廃食用油由来の環境対応エネルギーとして需要拡大が見込まれており、本製造所を供給の中核拠点として整備。年間約2万KLの供給体制を確立し、関西～中・四国エリアの需要拡大に対応可能となりました。

< 姫路製造所 >



< 多様なニーズに対応可能な供給体制を実現 >

- ・混和比率を柔軟に調整可能な高性能ブレンダー
- ・製品タンクを介さずに直接出荷可能な技術
- ・多様な車両に対応可能な入出荷設備
- ・AIカメラによる保安全管理システム

バイオ燃料製造/供給体制



環境対応エネルギーの供給体制強化を通じ、成長領域における事業拡大を推進

01 長期ビジョンと次なる成長に向けた戦略

VISION

環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて
社会に貢献するグループであり続ける

VISION

STRATEGY

- ①リサイクル事業の拡大
- ②環境対応エネルギーの事業化
- ③持株会社体制による効率的なグループ経営

STRATEGY

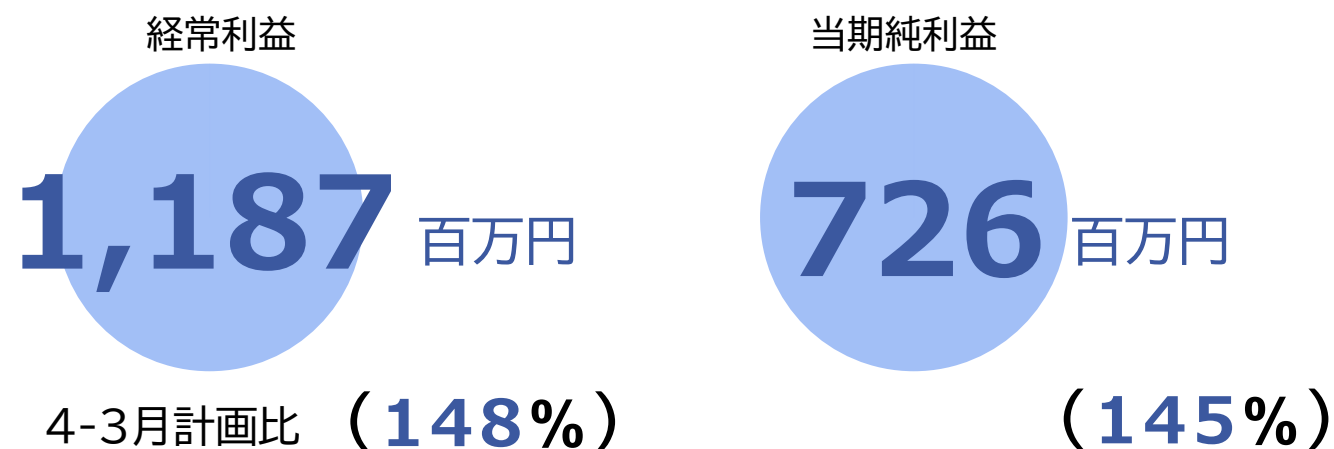
「グリーン」「エネルギー」「インフラ」の3つの領域に再編し、 富士ユナイトグループは更なる成長ステージへの挑戦を開始しました。

各事業領域へ経営資源を最適に配分することによって、
持続的な成長を加速させ、グループ価値の最大化を目指します。

領域	環境開発工業	富士ホームエナジー	富士興産	加島	富士レンタル
グリーン	○ リサイクル	○ ホームエネルギー	○ 再生可能エネルギー	○ リサイクル	
エネルギー			○ 石油	○ 石油	
インフラ					○ レンタル

02 2026年3月期 決算内容

2026年3月期（4-3月）実績



- ▶ グリーン領域のリサイクル事業、ホームエネルギー事業、インフラ領域のレンタル事業はいずれも好調に推移した。
- ▶ エネルギー領域においては需給が逼迫する中で、安定供給を着実に実現したこと、市況に応じた適正販売を行ったこと、および在庫評価益により、計画を達成した。

2026年3月期（4-3月）計画



経常利益 計画比**148%**
純利益 計画比**145%**

2026年3月期（4-3月）決算概要 ～3領域 5事業～

(単位：百万円)	2026年3月期 4-3月決算実績	2026年3月期 4-3月決算計画	達成率	2025年3月期 4-3月決算実績	前年対比
売上高	75,057	82,000	92%	68,344	110%
営業利益	1,184	800	148%	800	148%
グリーン領域 リサイクル ホームエネルギー 再生可能エネルギー	358	300	119%	-	-
エネルギー領域 石油	684	460	149%	-	-
インフラ領域 レンタル	329	250	132%	-	-
全社共通費用 (M&A関連費用を含む)	▲188	▲210	-	-	-
経常利益	1,187	800	148%	822	144%
純利益	726	500	145%	717	101%

営業利益 **358** 百万円

(計画比 +59百万円)

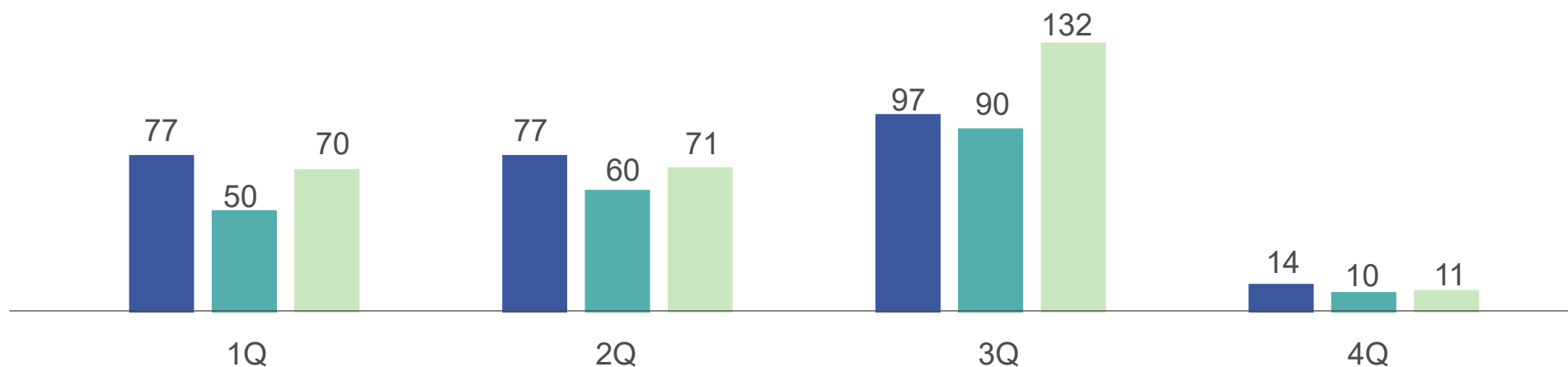


リサイクル事業 **265** 百万円
(計画比 +55百万円)


- 資源リサイクル事業は、素材売却単価の上昇や処理単価の高い案件の寄与により、利益は計画を上回った
- オイルリサイクル事業は市況に応じた適正販売および回収数量確保により、売上・利益ともに計画を上回り、安定的な収益を確保した
- 環境リサイクル事業は工事の時期ずれにより、売上・利益共に計画を下回った

リサイクル事業 四半期別営業利益推移

■ 当期実績 ■ 当期計画 ■ 前期実績 単位:百万円



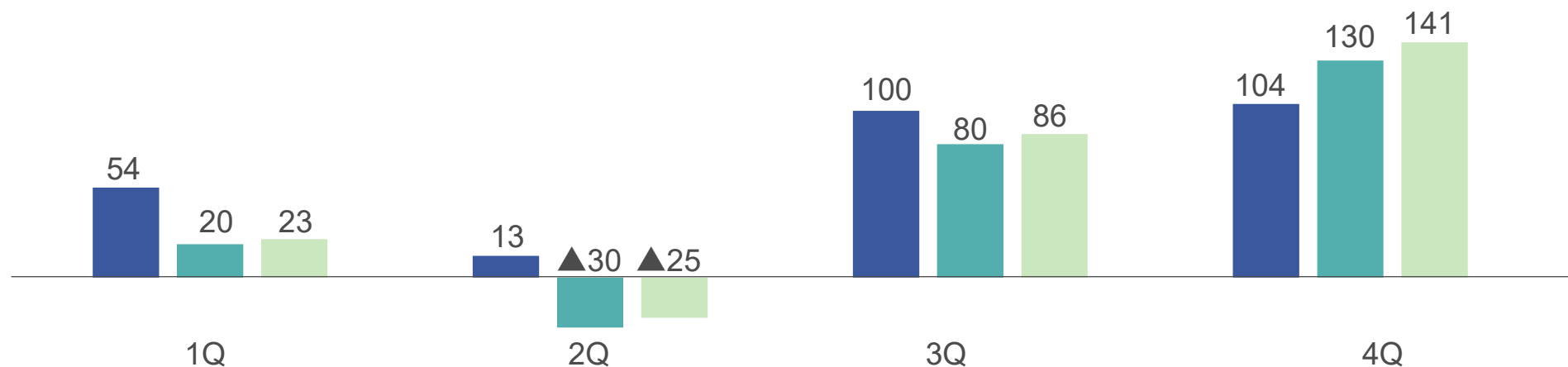
営業利益 **358** 百万円
(計画比 +59百万円)

→  ホームエネルギー事業 **271** 百万円
(計画比 +71百万円)

- LPG、灯油販売は、気温要因による需要増加により粗利を確保し、利益は計画を上回った
- 液石法改正を事業機会と捉え、「安全・安心・安定」の供給体制の維持・強化により、利益は計画を上回った。

ホームエネルギー事業 四半期別営業利益推移

■ 当期実績 ■ 当期計画 ■ 前期実績 単位:百万円



グリーン領域 業績 (再生可能エネルギー事業: バイオ燃料・再生重油・メガソーラー)

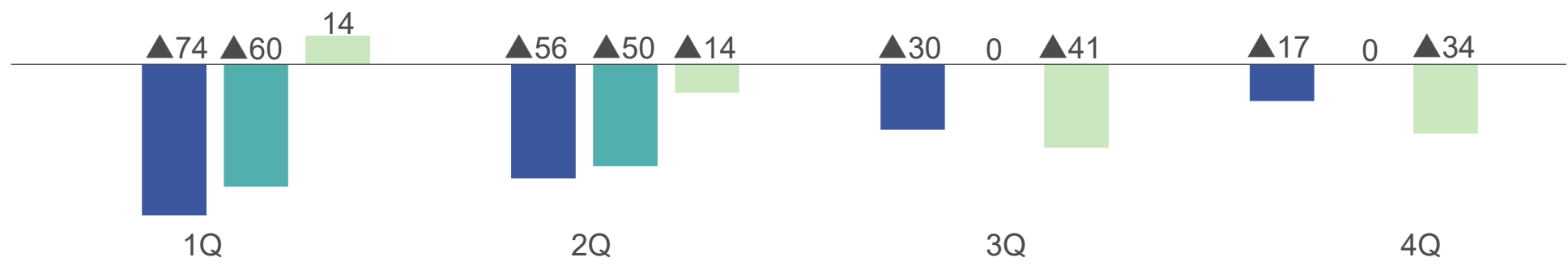
営業利益 **358** 百万円
(計画比 +59百万円)

再生可能エネルギー事業 ▲177百万円
(計画比 ▲67百万円)

- バイオ燃料は、設備コスト負担の増加により、利益は計画未達となったが、建設現場向けを中心に販売数量は増加した。
- メガソーラーは、1Qにおいて出力抑制や修繕の影響や積雪による発電量低下の影響があったものの、年間を通して利益は計画を上回った。

再生可能エネルギー事業 四半期別営業利益推移

■ 当期実績 ■ 当期計画 ■ 前期実績 単位:百万円



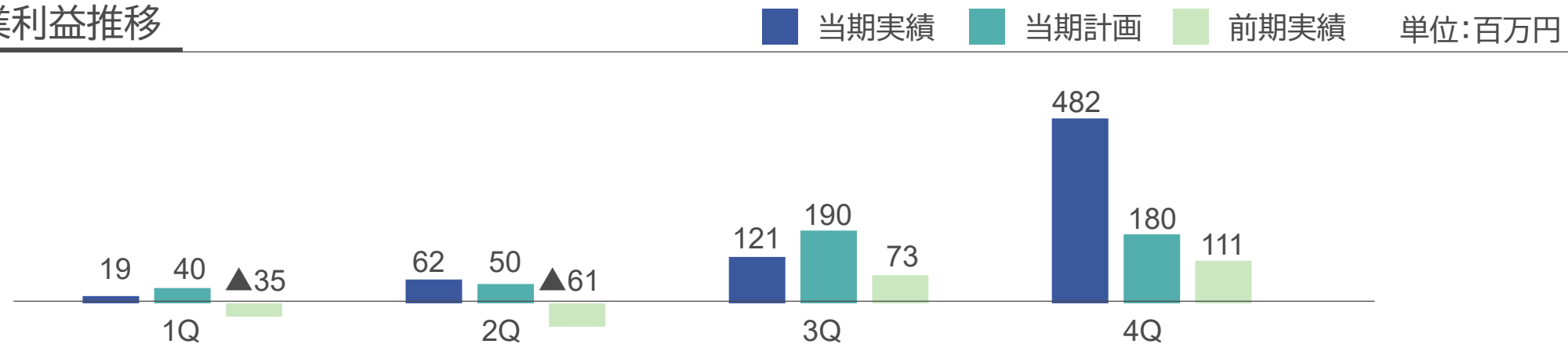
営業利益

684 百万円

(計画比 +224百万円)

- エネルギー領域においては需給が逼迫する中で、安定供給を着実に実現したこと、市況に応じた適正販売を行ったこと、および在庫評価益により、利益は計画を上回った。
- アドブルーは、需給逼迫への懸念を背景とした一時的な需要増加により、受注が増加した。加えて、カーショップ、ホームセンターなどの小売店向けの販売を強化したことにより、利益は計画を上回った。

四半期別営業利益推移



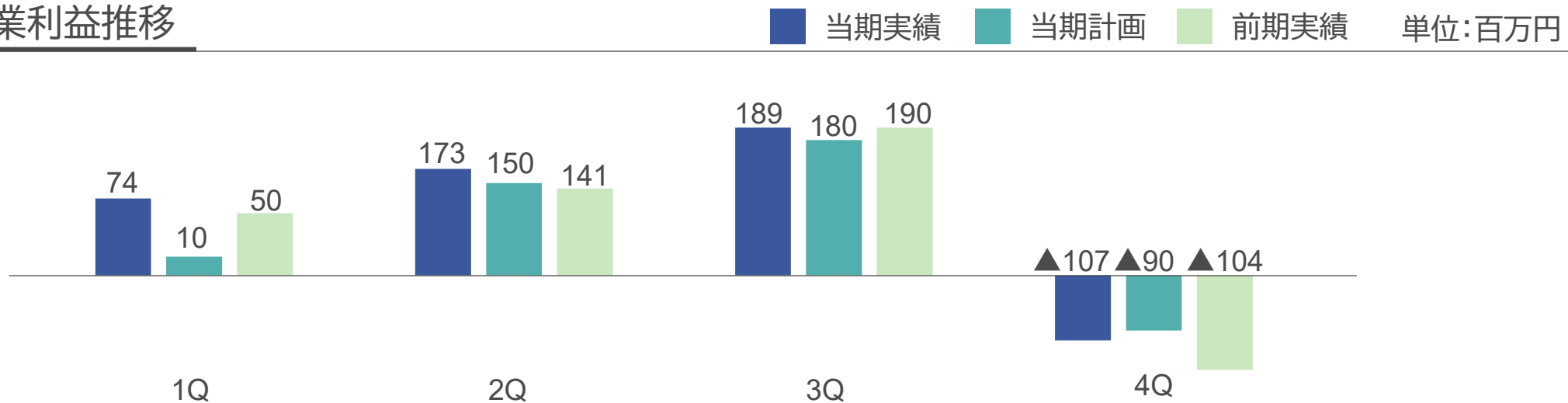
営業利益

329 百万円

(計画比 +79百万円)

- 売上・利益ともに予算を上回って推移しており、収益性を重視した運営により安定的に収益を確保
- 新規案件の取り込みと不採算要素の整理により収益体質が改善

四半期別営業利益推移



	単位	中間	期末	合計
純利益	(百万円)	286	726	726
配当総額	(百万円)	204	204	409
配当単価	(円/株)	31	31	62
対象株数	(千株)	6,588	6,599	-
自己株式取得	(百万円)	-	-	-
総還元額	(百万円)	-	-	409
総還元性向		-	-	56.3%



2026 年度 – 2028 年度

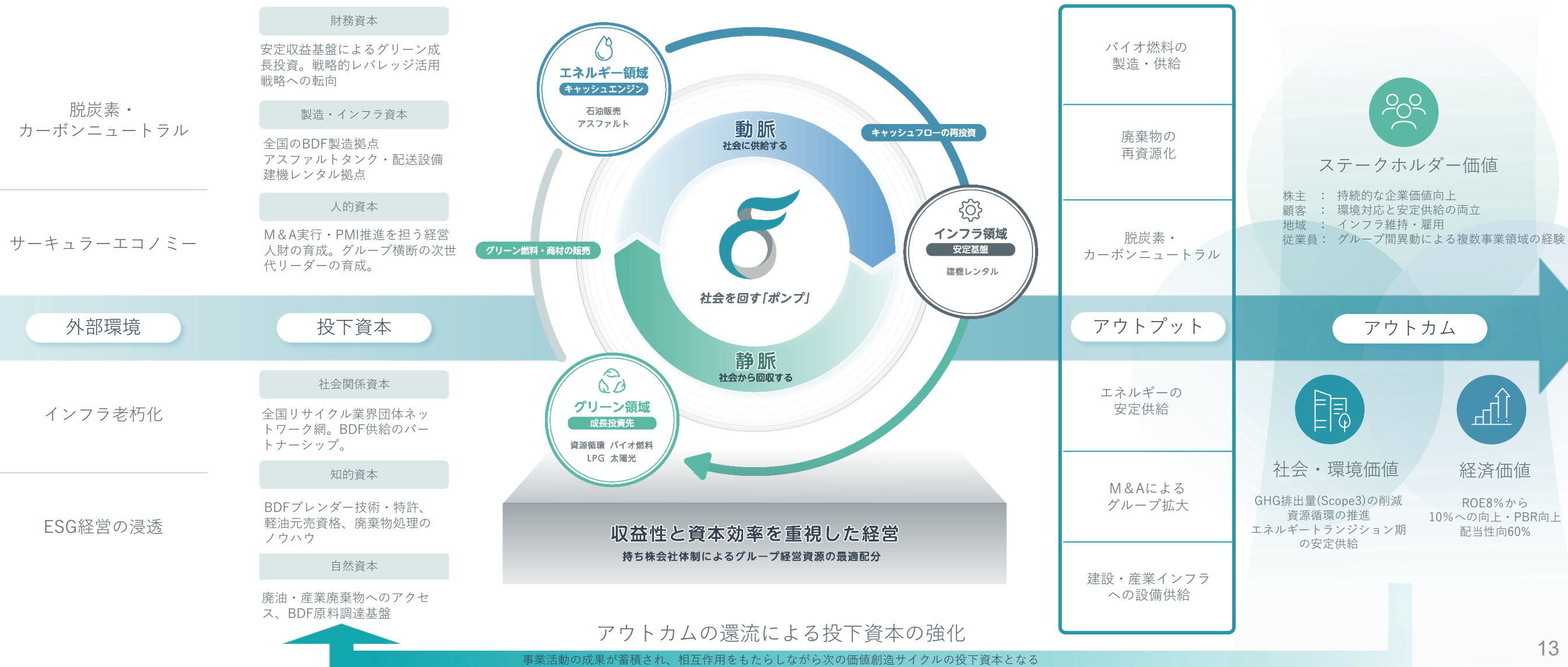
中期経営計画

2030年度に向けたロードマップ

変わる明日を、しなやかに支える

be open to changes for tomorrow

長期ビジョン 環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて社会に貢献するグループであり続ける



中期経営計画（2026 - 2028年度）エグゼクティブサマリー

中期経営計画概要（2026年度 - 2028年度）



グリーン領域への積極的な戦略投資



持株会社体制による効率的なグループ経営



持続可能な成長への投資と株主還元の両立

財務目標および株主還元方針

領域別
営業利益（28年度）

18.0 億円

ROE（28年度）

8.0 % 以上

配当性向

60 % 以上

* 2026年度配当単価は、年間62円/株（2025年度実績と同単価）

領域別営業利益
グリーン領域構成比
（30年度）

60 % 以上

- 資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社および情報提供者は一切責任を負いかねます。
- 当資料に記載されている当社の現在の計画等は、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらにより将来予測・業績予想には、リスクや不確定な要因を含んでおります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。